令和８年度
羽咋市復興実施計画評価報告書

令和８年１０月

羽咋市復興実施計画評価委員会

令和８年１０月２６日

羽咋市長　様

　令和８年度羽咋市復興実施計画評価委員会の評価結果について、次のとおり報告します。

羽咋市復興実施計画評価委員会
委員長　松田　孝司
委　員　藤本　裕子
委　員　中田　昌宏
委　員　杉浦　　繁
委　員　木曽　直樹
委　員　柳梅　伸光
委　員　新濃　道子
委　員　出雲　香苗
委　員　立中　善英
委　員　竹本　太郎
委　員　川崎　克幸
委　員　竹本　徹也
委　員　新谷　彰久
委　員　島崎　勝弘
委　員　西　　敏之
委　員　濵辺　巌
委　員　番匠　未樹
委　員　濱辺　正実
委　員　中村　晴樹
委　員　北川　正彦
委　員　上田　寛

令和８年度羽咋市復興実施計画評価委員会の評価結果の報告にあたって

令和８年度羽咋市復興実施計画評価委員会では、羽咋市復興実施計画のタイムラインに定める「短期（令和６年度～令和７年度）」について、「中期」以降の取り組みの実効性を高めていくために、事業の取り組みや進捗状況等について、評価を行った。

評価に際しては、事前資料を基に、成果指標事業、５つの柱、全体総括について各委員が先だって個別に評価を行い、評価委員会ではこれらの評価を取りまとめたうえで、最終的な評価を審議した。

また、各委員が一つ一つの事業や柱に真摯に向き合い、深く理解しようと努めたうえで、事前意見も含め多様な視点から意見を出し合うことができた。

いずれの評価についても、羽咋市が復興計画に掲げる「未来につながる復興」に向けて、着実に取り組んでほしいとの思いのもとに、各委員が議論を重ねて取りまとめたものである。

市におかれましては、これらのことを十分に踏まえ、羽咋市の復興に向けた取り組みを着実に進めてほしい。

羽咋市復興実施計画評価委員会
委員長　松田　孝司

目次

第１章　羽咋市復興実施計画評価委員会の概要
１　羽咋市復興実施計画評価委員会の役割・構成　Ｐ１
２　評価活動の経過　Ｐ２
３　評価の対象　Ｐ２

第２章　評価結果
１　評価結果の概要　Ｐ３
２　評価結果等の見方　Ｐ４
３　評価結果　Ｐ５
（１）成果指標事業評価
・柱１　くらしを再建する　Ｐ６
・柱２　住み続ける地域（ふるさと）を再建する　Ｐ１０
・柱３　地域経済を復興する　Ｐ１５
・柱４　インフラを迅速に復旧・強靭化する　Ｐ２０
・柱５　将来を見据えた災害に強いまちをつくる　Ｐ２４
（２）５つの柱評価　Ｐ２８
（３）総括評価　Ｐ３３

＜資料＞　Ｐ３４
１　羽咋市復興実施計画評価委員会委員名簿　Ｐ３５
２　羽咋市復興実施計画評価委員会設置要綱　Ｐ３６

第１章　羽咋市復興実施計画評価委員会の概要

１　羽咋市復興実施計画評価委員会の役割・構成

（１）評価委員会設置の経緯と目的

羽咋市復興実施計画評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、令和６年能登半島地震を乗り越え、羽咋市を将来にわたって住み続けたいまちとするため、「未来につながる復興」を基本方針とし、それぞれ「５つの柱」ごとに目標とそれに関する主な取り組み・施策を総合的、体系的にとりまとめられた「羽咋市復興計画」において、本市が直接実施、又は補助、支援する施策、事業等を具体的に示す「羽咋市復興実施計画（以下「計画」という。）」の進捗管理及び評価、検証にあたり、専門的かつ幅広い観点からの意見聴取を行うことにより、計画を着実に実行し、市民とともに「未来につながる復興」を効果的に推進するため、設置されたものである。

（２）所掌事務

評価委員会は、次に掲げる事項を審議し、意見等をとりまとめ市長に報告を行う。

ア　計画に掲げる施策及び事業の進捗状況の評価に関すること。

イ　復興プロセスの課題認識及び今後の方向性の検証に関すること

ウ　前２号に掲げるもののほか、計画の推進に関し必要な事項に関すること。

（３）評価委員会の構成

委員は、羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議設置要綱第３条第２項の規定により委嘱された羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議の委員をもって充てる。

（４）評価の流れ

市が実施する評価は、行政内部が実施する内部評価と評価委員会が実施する外部評価があり、その流れは次のとおりである。

①　内部評価

羽咋市復興本部において、各部署が復興実施計画に基づいて実施する施策および事業について、進捗状況、成果等を報告・議論し、取りま

とめる。

② 外部評価

評価委員会において、上記の①の内部評価結果を踏まえ、対象となった施策や事業及び総括について、進捗状況や成果等を専門家や市民の視点に立って評価し、市長に報告する。

③ 市の進行管理

市長は、内部評価及び外部評価を踏まえ、調整したうえで、今後の施策・事業等の復興に向けた取り組みに反映する。

2 評価活動の経過

（1）会議等の開催経過

会議	日時・場所	審議事項
（事前）	令和８年７月 17 日(金)～ 令和８年７月 31 日(金)	（事前審査） ・５つの柱と成果指標事業の評価 ・実施計画全体の総括評価
委員会	令和８年 10 月９日(金) 午後８時半～ 市役所４階 401 会議室	・５つの柱と成果指標事業の評価 ・実施計画全体の総括評価

3 評価の対象

令和８年度の評価委員会では、復興実施計画に定める「短期（令和６年度～令和７年度)」の施策・事業について評価を実施した。

（1）成果指標事業２２件の評価

（2）実施計画に定める５つの柱ごとの評価

（3）復興実施計画「短期（令和６年度～令和７年度)」の進捗状況等に対する全体をとおしての総括評価

第２章　評価結果

１　評価結果の概要

令和８年度の評価委員会の評価結果は以下のとおりである。
成果指標事業（２２件）、５つの柱（５件）、総括（１件）の評価を行った。

（１）成果指標事業の評価

成果指標事業の評価については、取り組みの評価区分を「Ｓ：計画以上の優れた成果を上げている」、「Ａ：概ね計画どおりの成果である」、「Ｂ：更なる取り組みの推進が必要である」、「Ｃ：見直しが必要である」として評価を行った。また、各事業の取り組みや今後の方向性等について、専門家や市民の目線を活かして意見を付した。

２２件のうち、７件を「Ｓ：計画以上の優れた成果を上げている」、１０件を「Ａ：概ね計画どおりの成果である」、５件を「Ｂ：更なる取り組みの推進が必要である」と評価した。

（２）５つの柱の評価

５つの柱の評価については、取り組みの評価区分を「Ｓ：大いに評価できる」、「Ａ：評価できる」、「Ｂ：やや不十分である」、「Ｃ：不十分である」として評価を行った。また、各柱の今後の方向性等について、専門家や市民の目線を活かして意見を付した。

５件のうち、４件を「Ａ：評価できる」、１件を「Ｂ：やや不十分である」と評価した。

（３）総括の評価

総括の評価については、取り組みの評価区分を「Ｓ：大いに評価できる」、「Ａ：評価できる」、「Ｂ：やや不十分である」、「Ｃ：不十分である」として評価を行った。また、各柱の今後の方向性等について、専門家や市民の目線を活かして意見を付した。

総括を「Ａ：評価できる」と評価した。

各評価については、評価結果（５ページ以降）のとおりである。

2　評価結果等の見方

区　分	柱種別
事業名	事業名

事業概要	当該事業等の概要

委員会評価結果	当該事業等に対する評価委員会の結果

委員意見（とりまとめ）
【評価への意見】 委員意見のうち、評価に関する意見 【今後の取組や方向性についての意見】 委員意見のうち、今後の取組や方向性についての意見 【その他】 委員意見のうち、上記以外の意見

3　評価結果

（1）　成果指標事業評価

柱1　くらしを再建する	委員会評価結果	Page
公費解体事業	A（概ね計画どおりの成果）	6
一般介護予防事業	S（計画以上の優れた成果）	7
ゲートキーパー養成講座	S（計画以上の優れた成果）	8
情報化推進事業（スマホ教室）	A（概ね計画どおりの成果）	9

柱2　住み続ける地域（ふるさと）を再生する	委員会評価結果	Page
道路と宅地等との一体的な液状化対策事業	A（概ね計画どおりの成果）	10
耐震住宅リフォーム支援事業	A（概ね計画どおりの成果）	11
災害公営住宅整備事業	A（概ね計画どおりの成果）	12
定住促進住宅地造成事業	A（概ね計画どおりの成果）	13
地域コミュニティ施設等再建支援事業（集会施設等）	B（更なる取り組みの推進必要）	14

柱3　地域経済を復興する	委員会評価結果	Page
未来につなげる羽咋なりわい再建支援事業	S（計画以上の優れた成果）	15
新規就農総合支援事業	A（概ね計画どおりの成果）	16
観光推進事業	A（概ね計画どおりの成果）	17
地域文化財デジタルアーカイブ化事業（アーカイブ化）	S（計画以上の優れた成果）	18
起業家支援事業	S（計画以上の優れた成果）	19

柱4　インフラを迅速に復旧・強靭化する	委員会評価結果	Page
能登半島地震公共道路等施設災害復旧工事	B（更なる取り組みの推進必要）	20
未耐震化施設解消事業	A（概ね計画どおりの成果）	21
公共土木施設災害復旧事業	B（更なる取り組みの推進必要）	22
体育施設整備事業	A（概ね計画どおりの成果）	23

柱5　将来を見据えた災害に強いまちをつくる	委員会評価結果	Page
防災士育成事業	S（計画以上の優れた成果）	24
登録制防災メール（安全・安心メール）整備事業	S（計画以上の優れた成果）	25
災害時協力井戸登録事業	B（更なる取り組みの推進必要）	26
防災備蓄倉庫等整備事業	B（更なる取り組みの推進必要）	27

評価区分	S	A	B	C
成果指標事業評価　集計	7（32%）	10（45%）	5（23%）	0（0%）

（2）　5つの柱評価

5つの柱	委員会評価結果	Page
柱1　くらしを再建する	A（評価できる）	28
柱2　住み続ける地域（ふるさと）を再生する	A（評価できる）	29
柱3　地域経済を復興する	A（評価できる）	30
柱4　インフラを迅速に復旧・強靭化する	B（やや不十分である）	31
柱5　将来を見据えた災害に強いまちをつくる	A（評価できる）	32

（3）　総括評価

委員会評価結果	A（評価できる）	33

分類【成果指標事業】

区分	柱１　くらしを再建する
事業名	**公費解体事業**

事業概要	災害により被災し、やむを得ず解体する家屋の解体・撤去に関する支援とそれに伴い発生する災害廃棄物の処理を実施

委員会評価結果	**Ａ：概ね計画どおりの成果である**

委員意見（とりまとめ）
【評価への意見】 ・委員自身が公費解体の対象となる方の話を聞く機会が少なく細かな評価しにくいが、窓口や市HPの作りは良かったと感じていた。 ・解体についての周知、受付・相談、工事がスムーズに進み、申請ほぼ全てを解体できて素晴らしいと思う。 ・概ね計画どおり進捗。 ・計画通り公費解体完了率100％を達成できていることを評価する。 ・着実に実行し、目標を達成した。 ・町内の神社旗木小屋の公費解体を申請し、住民側の意見、要望に沿った施工を行っていただきました。 ・通常建物の解体が100%完了していることが評価に値する。 ・非住家を含めて解体申請が急増した状況の中で、ほぼ解体が完了したことは、被災者の生活再建に役立ったものと思われます。 ・令和７年１１月末までに申請７９６棟のうち７９０棟の解体を完了したという実績は素晴らしいと思う。 **【今後の取組や方向性についての意見】** ・残る案件の早期完了に期待します。 ・特殊事情の未完了案件についても、引き続き事業完了に向けた対応を継続して願います。

分類【成果指標事業】

区分	柱１　くらしを再建する
事業名	**一般介護予防事業**

事業概要	通いの場等の身近な地域での活動の場の確保や、多様な活動を支援し、介護予防ポイントを付与することにより、多様な場への社会参加を促すことで、フレイル予防に取り組む。

委員会評価結果	**Ｓ：計画以上の優れた成果を上げている**

委員意見（とりまとめ）
【評価への意見】 ・デジタル化したことで申請者や登録団体も着実に増加し、目標を上回る成果を上げておりすばらしい ・デジタル化で参加団体が大幅増加し、健康づくりが進展している。 ・デジタル活用やポイントなどが時代にマッチし、高年齢の方の活動を豊かにしていくことに有効だと思う。 ・ポイントの獲得を動機として地域での活動をすることで心身の健康状態が良くなることにつながり、面白い取り組みだと思います。 ・羽羽ポイントの活用する場面が多くみられたのは素晴らしいと思う。 ・羽羽ポイントの対象が拡充されたのはよいと思う。 ・事業の主旨は良いが、名前が変わったことでどのような制度なのかわかりづらくなった。 ・高齢者の健康寿命の延伸に繋がる施策と思う ・多様な場への社会参加を促すことが目的になっているのなら概ね計画通りの成果を上げている。 ・暮らしの再建にフレイル予防（健康と要介護の端境のことと理解）は、大変重要な取り組みと理解している **【今後の取組や方向性についての意見】** ・デジタル機器に不慣れなために利用困難な方も想定される。高齢者のためのスマホ教室の際に案内するなど、幅広く利用されるよう更なる工夫をお願いします。 ・利用対象の拡大で更なる進展を期待します。 ・ただ、この制度について知らない高齢者のかたが多くいるように思う。これをきっかけに「つどいへの参加してみょうか」という方々が増えるような働きかけが必要ではないでしょうか。 ・Ｌｉｎｅでの「オンライン手続」でポイントを確認等する際に入力を求められる生年月日の入力に時間がかかるため、「年」はプルダウンでなく、直接入力できるとよい。 ・説明を丁寧にし、周知を徹底するのが普及の鍵だと思う。利用者の拡大に努めてほしい。 ・情報発信、デジタルポイント利用困難な方への支援を継続して、羽咋市民の健康づくりの意識を高めるに加えて、登録施設の利用増加や地域コミュニティの形成を継続してください。 ・高齢であっても個人でフレイル予防に努めて生活者として自立している人へはポイント還元できないのが課題である。 ・推進していただきたい。

分類【成果指標事業】

区分	柱１　くらしを再建する
事業名	**ゲートキーパー養成講座**

事業概要	被災住民の見守り活動を行う民生委員・児童委員や地域福祉推進チームや被災者支援を行う機関や組織等に、関係機関と連携し、こころの健康づくりと自殺防止の門番に関する講座を開催する。

委員会評価結果	**Ｓ：計画以上の優れた成果を上げている**

委員意見（とりまとめ）

【評価への意見】
・「こころの健康づくり」の学生への出前講座は良い試みである。
・特に子どもの命を救うことにも直結する。
・若者の死因の多くが自殺であることから、高校生に対する出前講座により予防的な活動を行われることは良い取り組みだと思います。
・中間目標を既に達成できている。
・年齢・世代に関係なくこころの健康づくりと自殺予防対策は必要です。
・被災者の方々に限らず、中・高校生さらには小学生の自殺が増えているというニュースを目にして心が痛む。
・目標を大きく上回り、地域の見守り体制強化につながった。
・目標以上の実績を出せていることを評価する。高校生への出前講座を行ったのも良い。繊細な年代だからこそ、こころの健康づくりの講座は意義が大きいと思う。
・養成講座の受講者数は計画以上に進捗している。

【今後の取組や方向性についての意見】
・継続していただきたいです。
・ゲートキーパー（自殺予防）大変大切な取り組みですので、推進していただきたい。継続的に中学校、高校への出前講座など、実施していただきたい。
・高校生への普及を進めているのも素晴らしく、若者へ広げていければと思う。
・今後も心の健康づくりの必要性を普及していってほしい。
・対象を教職員に広げ、自殺という最悪な結果に至らぬような働きかけを継続してほしい。
・受講者にアンケートをとるなど内容等見直しする必要がないか点検しながら、引き続き取り組みをおこなってほしい。

分類【成果指標事業】

区分	柱１　くらしを再建する
事業名	**情報化推進事業（スマホ教室）**

事業概要	高齢者向けにスマホやアプリの活用を学ぶスマホ教室を公民館等の公共施設にて開催。（年間30回実施）

委員会評価結果	**Ａ：概ね計画どおりの成果である**

委員意見（とりまとめ）
【評価への意見】 ・ＬＩＮＥ以外のメール機能を使うことができない高齢者は多く、通信機器の使用方法について取り残されているため、良い取り組みだと思います。 ・デジタル化は今後も発展していくため、デジタル利用困難者が地域コミュニティから孤立しないよう継続開催は良い取り組みだと思う。 ・公民館でのスマホ教室の継続した取り組みは素晴らしいと思う。 ・町会の回覧や掲示版に広報活動がわかりやすく、参加しやすい体制が構築されている ・平時から安全にスマホから情報を得る術を持っておくことが非常時、大変役に立つので重要。また、信用し過ぎないことも併せて伝えてほしい。 **【今後の取組や方向性についての意見】** ・高齢者がスマホが使えると家族も連絡が取りやすくなり安心である。この取り組みは継続してほしい。 ・概ね目標を達成し、デジタル活用促進に寄与している。継続的な支援を期待します。 ・今後も町会や公民館等多くの施設で継続していってほしい。 ・情報格差を縮める高齢者のスマホ教室は引き続き推進してほしい。スマホ教室の受講した方は今後さらにレベルの高い内容を求める方も多くなるかもしれません。ニーズの把握し、ニーズに応じて内容を検討していただければと思います。 ・教室では初心者に対して、スマホ特殊詐欺対策（警察庁推奨の無料アプリ）などのダウンロードを直接ご指導いただければと思います。 ・これからは、ＡＩ搭載の通信機器や電子機器が急増することが予想されますので、ＡＩ利用が主流となる社会においても取り残されないように、ＡＩの良い活用方法などを教える取り組みにも期待しています。 ・各町会でのつどいの場を利用した「出張版教室」を開催するなど取り組みを進めてほしい。たとえば「のるまいかー」の予約の仕方など高齢者の生活に寄り添ったテーマを設定することで、参加者を増やしていけばいいと思う。

分類【成果指標事業】

区分	柱２　住み続けるふるさと（地域）を再生する。
事業名	**道路と宅地等との一体的な液状化対策事業**

事業概要	道路等の公共施設と、個人宅地等の一体的な液状化対策の調査、検討及び対策の実施する。

委員会評価結果	**Ａ：概ね計画どおりの成果である**

委員意見（とりまとめ）
【評価への意見】 ・関係者との対話や調査を着実に進めており評価できます。住民への丁寧な説明を継続し早期整備につなげてください。 ・計画通り進んでいるので、今後も進めていってほしい。 ・対策の対象エリアの地権者に対して意向調査を実施し終えているので概ね計画通り進んでいると判断した。 ・短期目標は達成しているが、これからが対策工事の施工が本格化することとなるので、取り組みの推進をお願いします。 **【今後の取組や方向性についての意見】** ・詳しい専門的なことはわからないが、対策工事に時間がかかりすぎるのではないかと思う。５年、１０年、、、といわれると高齢者が主な家では困ると思う。対応を早くしてあげてほしい。 ・引き続き合意形成が図られた地区から、対策工事の実施設計に着手に努めてください。 ・液状化対策には色々と時間がかかると思いますが、今後も繰り返し液状化が発生しないようになるべく早く工事が完了し、地域住民が安心して暮らせるようになるよう願っております。 ・広範囲の土地の液状化対策工法として、諸々条件をクリアする最適な工法のだろうと思います。ただ、根本的に地質が変わらない限り、上に載っている建物は地震時に揺さぶられれば水の影響を受けます。効果的に永続的に地下水位を下げ続けることが可能なのか疑問です。 ・今後、より早い実施地域の拡大が必要。

分類【成果指標事業】

区分	柱２　住み続けるふるさと（地域）を再生する。
事業名	**耐震住宅リフォーム支援事業**

事業概要	昭和５６年５月以前に着工した住宅だけでなく、被災して耐震性が低下した住宅についても、耐震診断・耐震改修工事・簡易耐震補強工事・建替え工事（被災住宅に限る）にかかる費用を補助する。

委員会評価結果	**Ａ：概ね計画どおりの成果である**

委員意見（とりまとめ）

【評価への意見】
・耐震化相談会の開催、広報誌に耐震化の重要性と補助制度の概要を掲載し、市民へ周知が十分図られている。
・耐震化率向上が進み、安全な住環境整備につながった。引き続き制度周知と利用促進に努め、さらなる耐震化の推進に期待します。
・耐震化工事の費用の問題から工事が出来ずにいる家庭もあるかと推測しますが、行政がこのような補助をすることは市民の命を守ることに繋がり良いことだと思います。補助実績もありますので、今後も地道に周知活動を行っていただければと思います。
・計画的に進んでいると思う。一方で、「したくともできない」方が課題であるが、相談にのり、できることがあれば対応していければありがたいと思う。
・先日の熊本の震災もあり、石川で震災がまたいつ発生するかわからないと思った人も多いだろう。必要な取り組みなので、着実に進めていってほしい。補助金増額などは耐震工事を検討している人の後押しになるので非常に良い。広報やSNS、公式LINEなどで周知の徹底を図ってほしい。
・目標は達成できているものの、令和６年度と比べ令和７年度は、耐震診断が減り、旧耐震棟数の減少に大きな進展はみられていないので、引き続きの周知をお願いします。
・耐震診断が必要かどうかの判断が基準としてわかりにくく、また診断によって必要と判断されても高齢者には負担に二の足をふむ人も多いのでは、、、。
・施工業者不足や多額の費用が高齢で負担できない等、危機感の薄さにより制度利用が進まない現状は受け止められる。羽咋市住宅耐震化緊急促進アクションプログラムの達成に沿ったアクションプラン実施を願いたい。

【今後の取組や方向性についての意見】
・７月２８日、熊本では再び大地震に見舞われました。まさに他人事ではありません。今後も制度の継続、周知・普及をお願い致します。
・check②にもあるとおり、多額の費用がかかるため300万円の補助があっても踏み切れないというのが現実と考える。さらに昨今の物価上昇、施工費の増加を賄いきれない。完璧な耐震を推進することも大切だが、簡易的な耐震補強でも倒壊を遅らせ命を守る有効なものもあるため、補助率を上げることも検討いただきたい。
・昨年防災士のスキルアップ研修で聞いた話では、「避難所」へ行かない「自宅避難」の取り組みの話を聞いた。耐震化補強工事や太陽光パネルと蓄電池の設置などそのメリットの宣伝や国・県・市の補助の拡充などをしていってほしい。

分類【成果指標事業】

区分	柱２　住み続けるふるさと（地域）を再生する。
事業名	**災害公営住宅整備事業**

事業概要	災害で住宅を失い、自力での住宅再建が難しい被災者向けに、低廉な家賃で賃貸する公営住宅を整備する。

委員会評価結果	**Ａ：概ね計画どおりの成果である**

委員意見（とりまとめ）
【評価への意見】 ・計画通り工事が進んでいることが現場の変化からもよく理解できる。 ・工事が順調に進捗していると判断して評価いたします。 ・災害公営住宅は買い物にも便利な場所で、高齢者にとっては良い立地なのではないでしょうか。入居希望者の多くが実際に入居できるよう願っております。 ・自分の地域を離れることに踏み切れない人も多いのではないか。 **【今後の取組や方向性についての意見】** ・引き続き、被災者のためにご尽力いただきたいです。 ・計画どおりに進んでいる。入居を待っている被災者のためにも遅れることないようお願いします。 ・工事まで計画的に進んでいると思うので、今後も予定通り進めてほしい。 ・整備は概ね計画どおり進んでいます。入居後の地域コミュニティ形成にも配慮した取組を期待します。 ・令和８年１０月の入居に向けて引き続き頑張ってほしい。ただ、仮設住宅で使っているエアコンなどの設備で再利用可能なものを低価格で設置する、３年後？も低価格で利用できるようにするなど被災者に寄り添った取り組みをしていってほしい。

分類【成果指標事業】

区分	柱２　住み続けるふるさと（地域）を再生する。
事業名	**定住促進住宅地造成事業**

事業概要	千里浜ヒルズの宅地分譲に続き、新たな宅地分譲を行い、安心して住み続けることができる住環境の整備を推進し、切れ目のない定住人口の拡大につなげていく。

委員会評価結果	**Ａ：概ね計画どおりの成果である**

委員意見（とりまとめ）

【評価への意見】
・「定住促進」と「災害復興実施」とは少し見る角度として（考え方として）ズレがあるように思う。
・84％が市外からの申し込みであったということから、これからも市外からの移住希望者に期待したい。
・羽咋市は奥能登地方と比べて地震の被害は比較的少なく、地価が安くて自然環境も良く、スーパーや病院もあり、小中学生の学力も高いため、子育てもしやすい地域だと感じます。金沢市や高岡市にも車で１時間程度で行ける立地なので、大きな買い物などでも不便がなく、能登地域からの人口の受け入れ先としては有利な立地だと思います。能登地方で一番発展する街としての潜在能力はあると思いますので、引き続き戦略的な宅地開発に期待しております。
・立地場所のよさも含め、宅地分譲造成により移住への効果が期待でき、市の人口増加につながっていくと思う。

「今後の取組や方向性についての意見】
・今後の宅地分譲造成計画において、土地の有無があると思いますが、羽咋市街中心から離れていくのでしょうか。
・市外からの高い需要が見込まれ、移住者の増加にもつながることから、引続き取組みを推進してほしい。
・将来の定住促進に向け着実に準備が進んでいます。引き続き、需要を踏まえた柔軟な整備を期待します。
・宅地造成の必要性に理解を示しつつも、計画が戸建て住宅に偏っているように感じる。兵庫ヒルズ計画は推進されるだろうが、今後は、多様な住まい方を許容する共同住宅の構築も必要と考える。
・宅地分譲を推進し人口増加していくのはいいが、千里浜や兵庫など市の中心部だけが開発されて行くのに何かすっきりしない。周辺の町を含めた取り組みを期待したい。

分類【成果指標事業】

区分	柱２　住み続けるふるさと（地域）を再生する。
事業名	**地域コミュニティ施設等再建支援事業（集会施設等）**

事業概要	地域のコミュニティ活動の場となる集会施設等の再建や改修等に要する費用を支援する。

委員会評価結果	**Ｂ：更なる取り組みの推進が必要である。**

委員意見（とりまとめ）

【評価への意見】
・地元神社の灯籠復旧工事で補助をいただいた。地震はまたいつ起こるかわからないので、今後もこの制度を継続していただきたい。
・支援は進められていますが再建に時間を要しています。地域の実情に寄り添った伴走支援の継続を期待します。
・地域コミュニティにとって施設の被害や老朽化は深刻なので、支援する取り組みは重要。引き続き力を入れてほしい。
・鳥居や灯籠の地震被害による再建は多額の費用が発生するので、町内会独自で修理を行う事は難しいので、このような補助があると助かる町内会は多いと思います。仮に補助がなければ町民の万雑による負担となり、結果的に費用を工面できず再建が遅くなり、地域住民の活動拠点が失われかねません。政教分離の原則もあるかと思いますが、本事業は特定の宗教を援助することなく地域コミュニティの再建を目的としており、今後も続けていただきたい良い取り組みだと思います。
・費用面があり仕方ないが、町会は最も身近なコミュニティのため、市の活性化の前の真の地域活性化へつながる場所のため、できるだけ早く進めていければよいと思う。

【今後の取組や方向性についての意見】
・熊本にまた地震が起こったように、能登地域でもまた地震が起こるのではないか、と不安になっている。集会施設の改修・再建はもちろんだが、備蓄倉庫を設置し、避難支援の物資などの分散備蓄を進めていってほしい。
・再建について町会の意向を優先すべきと考えるので、市として周知や相談対応をしっかりしていれば、町会のペースで進め、目標にこだわらなくてもいいと思います。
・施工業者不足と費用面で再建完了まで期間を要するであろうことに対して今後どのような対策をとるのか明確にしていってほしい。
・随時、町会からの相談を拾い上げ、対応・補助金申請を願いたい。
・生活再建が先なためどうしても緊急性の高いもの以外は申請が遅れるのは致し方ない。引き続き、支援を継続されてください。

分類【成果指標事業】

区分	柱３　地域経済を復興する
事業名	**未来につなげる羽咋なりわい再建支援事業**

事業概要	被災した事業者向けの復旧及び復興を後押しすることを目的とした国や県の補助金に、さらに市独自支援策の上乗せを行い、事業者の再建を支援する。

委員会評価結果	**Ｓ：計画以上の優れた成果を上げている**

委員意見（とりまとめ）

【評価への意見】
・これまでになりわい補助金等を利用した被災事業者が多いと聞いていますので、事業者にとって助かる制度だと思います。申請漏れがないように今後も周知を継続されることは良いことだと思います。
・件数がとても多く、上乗せ制度導入の周知の成果が大きく出ていると思う。
・支援件数が目標を大きく上回り、地域事業の再建に大きく寄与した。
・周知や的確な対応により、多くの事業者の支援ができたと推察される。

【今後の取組や方向性についての意見】
・６９件もの再建支援への取組み、本当にご苦労様でした。まだ支援を必要としている事業者の方がいると思います。効果的で持続的な取り組みを期待しています。
・自己の業務が忙しく被災しているにも関わらず煩雑な申請から目を背けている場合もあると考える。申請漏れがないように周知徹底をされるとのことなので、諦めている方向けの広報・情報収集の方法もご検討ください。
・申請漏れがないよう周知に努めてください。
・速やかな対応が実施されている。今後も申請漏れがないようにしていってほしい。

分類【成果指標事業】

区分	柱３　地域経済を復興する
事業名	**新規就農総合支援事業**

事業概要	目標地図に位置付けられている独立・自営就農者に対して最長３年間、就農給付金を給付する。

委員会評価結果	**Ａ：概ね計画どおりの成果である**

委員意見（とりまとめ）

【評価への意見】
・羽咋市内でワイン用のブドウを栽培できるとは思いつきませんでした。新たなアイデアをもった新規就農者が行政の後押しにより、今後も「なるほど！」というような農産品を作ることは、周辺農家に対しても良い影響を与えるはずです。地域の農業関連の底上げにつながる新規就農者支援を今後も継続していただければと思います。
・活動が広報・新聞等でも伝わってきている。今後も広く広報活動しながら継続してほしい。
・計画どおり支援をできている。新規就農者に対し給付を行い、担い手を増やすだけでなく、新規就農者が就農給付金の支給終了後も確実に経営を続けられるよう支援してほしい。
・少しずつでもこうして就農する方が増えていることは素晴らしいと思います。これからも継続していけるように粘り強い取り組みを期待します。
・新規就農者が、着実に増えていることは喜ばしいことだ。3年後農業で利益を出すために支援をお願いいたします。
・新規就農者を着実に確保しています。担い手育成と定着支援を継続し、地域農業の活性化につなげてください。
・新規就農者目標数の設定、既存農家との交流指導など、内容がよくわかりません。
・数は少ないが、特色ある担い手さんが出てきているのは心強い。アフターフォローもしっかりお願いします。
・相談と給付がうまく働き、羽咋の環境を活かした事業実施者が出ていると思う。

【今後の取組や方向性についての意見】
・給付金の周知を引き続き農業の担い手発掘に努めてください。

分類【成果指標事業】

区分	柱３　地域経済を復興する
事業名	**観光推進事業**

事業概要	広域連携の強みを生かし、本市はもとより能登地域の暮らしや自然・文化のほか、新たな体験型観光に関するコンテンツの開発や積極的な情報発信を行い、関係人口拡大につなげる。

委員会評価結果	**Ａ：概ね計画どおりの成果である**

委員意見（とりまとめ）

【評価への意見】
・各種イベント、本州初のトキ放鳥など、積極的な情報発信は非常に良い事と感じます。千里浜海岸のＰＲなども合わせて、今後も情報発信をお願いします。
・観光イベントや情報発信を継続し交流人口の回復が進んでいます。今後の誘客強化にも期待します。
・近年、羽咋市のアピールがいろいろな地域へ伝わっている感じがあり、今後も、特産品や自然、文化など各分野の注目すべきことを広げてほしい。

【今後の取組や方向性についての意見】
・ふるさと納税への勧誘も含めて今後もプロモーション活動を推奨してほしい。
・計画どおりにPRを行われているものの、計画にある体験型観光に関するコンテンツの開発の進捗状況がどうなっているのでしょうか？
・従来のPRに加えて、大都市圏にある石川県のアンテナショップへの出品促進も積極的に行っていただきたい。
・地理的な条件がありどうしても通過点になりがちな羽咋市である。羽咋ならではの体験ができる観光資源の開発などさらなる取り組みを期待したい。
・能登半島地震の被災地であることのイメージは年々薄まることになると思いますので、羽咋市の魅力を継続的に発信していただければと思います。
・本州初のトキ放鳥地のPRに努め羽咋市の観光資源の定着に努めてください。又、日本で唯一である海岸線を走れる千里浜海岸の発信による観光客誘致増加も推進して欲しい。

分類【成果指標事業】

区分	柱３　地域経済を復興する
事業名	**地域文化財デジタルアーカイブ化事業（アーカイブ化）**

事業概要	文化財レスキューで収集した地域の資料および、歴史民俗資料館収蔵資料についてデジタルアーカイブ化を進め、記録保存とデータ公開による魅力発信に努める。

委員会評価結果	**Ｓ：計画以上の優れた成果を上げている**

委員意見（とりまとめ）

【評価への意見】
・３Ｄで文化財の細部まで見ることが出来て大変興味深いです。特に妙成寺五重塔の内部を初めて見ることができて感動しました。多くの方にこの取り組みが知られることで閲覧回数は更に増える内容だと思います。
・この目標の点数が数値的に高いのか低いのかが良くわからない。
・デジタル博物館の文化財の3Dモデルデータ化の取組みは非常に良いと思います。ただ、自宅のＰＣで閲覧できてしまうと、歴史民俗資料館へ足を運ぶ事が無くなってしまうような気がします。
・計画通り文化財の３Dモデルデータを作成し公開できた。さらなる充実を図ってほしい。
・被災に耐えたものも、今後、天災・人災に関わらず共に失われるリスクを孕んでいるため、デジタルアーカイブに残す意義は大きい。
・文化財の３Ｄデータはとてもよくできている。羽咋の文化の良さを後世に伝えていくために、市民、そして子ども達へ広げてほしい。
・目標を上回る成果により文化財の保存と魅力発信が進みました。観光や教育への活用拡大を期待します。
・目標を大きく上回りアーカイブ化されている。

【今後の取組や方向性についての意見】
・デジタル博物館のコンテンツは非常に良質だが、存在を認知していない市民はまだまだ多いのが現状かと思う。広報、SNS、市公式LINE、とりわけ文化財や歴史関連のイベントでPRし、認知拡大に努めてほしい。
・震災による文化財レスキューの取組みは大変だったと思います。今回集まった文化財を多くの市民のみなさんに知ってもらえるような企画・取り組みを期待しています。私たちの先祖たちがどうやって暮らしてきたのかその歩みをわかりやすく伝えてほしい。
・歴史資料のデジタルアーカイブ化を継続してください。

分類【成果指標事業】

区分	柱３　地域経済を復興する
事業名	**起業家支援事業**

事業概要	市内での新規起業や事業承継に助成を行うことで、起業等を促し、空き地、空き店舗の解消と地域経済の活性化を図る。

委員会評価結果	**Ｓ：計画以上の優れた成果を上げている**

委員意見（とりまとめ）

【評価への意見】
・起業セミナーの実施等の支援に取り組み、被災地域における起業の機運醸成につなげている。
・起業支援が目標を上回り地域活力の向上につながっています。
・若者の自由な発想で様々なことに挑戦し、イノベーションを起こすきっかけを支援する取り組みは大変良いことだと思います。
・補助金支給、起業セミナーの実施による機運醸成が上手くいっていると思う。それは市の活性化につながると考えられる。
・目標を達成をしており、素晴らしいと思いますが、セミナーや交流会の参加者が最大２４名いたとのことなので、その後のフォローアップをして起業に至っていない理由等分析することで、より効率の良い施策が生まれてくるのではないかと思います。
・少しづつではあるがこうして新規起業や事業継承の取組みの成果が上がっていることは素晴らしいと思う。今後も継続した取り組みを期待します。

【今後の取組や方向性についての意見】
・チャレンジショップは是非実現していただきたいですし、コンシェルジュ付きのシェアオフィス構築を民間と共同で推し進めてほしい。
・起業を行った方の実態モニタリングやセミナー開催時には講演していただく取り組みを行っても良いと思います。
・今後の長期的支援をどうしていくのかが大切になるのではないか。

分類【成果指標事業】

区分	柱４　インフラを迅速に復旧・強靭化する
事業名	**能登半島地震公共道路等施設災害復旧工事**

事業概要	被災した道路、河川等インフラ施設の本格復旧。 液状化地区においては、液状化対策を踏まえた、施設復旧を実施、再度災害防止対策も検討、実施する。

委員会評価結果	**Ｂ：更なる取り組みの推進が必要である。**

委員意見（とりまとめ）

【評価への意見】
・能登全域で大規模な復旧工事が行われている最中ですので、業者や資材が不足して予定通りに工事が進まないのはやむを得ない事だと思います。着実に復旧工事を行っていただき、時間がかかってもしっかりとしたインフラ整備を継続していただければと思います。
・復旧は着実に進む一方、資材確保等で遅れも見られます。安全確保を最優先に早期復旧が望まれます。
・物理的に時間がかかることも多い中で、計画は明確になっている。優先順位をつけながらできるところから工夫して進めていけばよいと思う。
・目標値は高いが復旧へのご尽力感謝しております。下水道が足枷のように思える。せっかく引いた下水道ではあるが、今回被災したエリアの中で公共下水道から合弁処理浄化槽への転換視野に入れて計画を見直すことも再度災害につながるため検討いただきたい。

【今後の取組や方向性についての意見】
・いろいろ進捗が進まない要素はあると思いますが、重要な施策であり、早急な取り組みの推進を望みます。
・引き続き順次着手を願いたい。
・液状化エリアの路線について、工事に時間を要することは十分理解できた。早期に着手できることを期待する。
・関係者のみなさんががんばって取り組まれていることは十分にわかるが、復旧作業があまりにも遅いと思う。幹線道路、河川、下水道管など市民の生活にとって大切なインフラであり、早急に整備されるように取り組んでほしい。
・関係者調整と事業者の不足などもあり、大変かと思うが一層の推進を願いたい。
・市道に陥没個所が多々あり、修繕が滞っていると感じます。本復旧の工事施工に、かなりの年月を要するとなれば、まず陥没した箇所を埋める仮処置だけでも、行っていただけないものでしょうか。

分類【成果指標事業】

区分	柱４　インフラを迅速に復旧・強靭化する
事業名	**未耐震化施設解消事業**

事業概要	未耐震など倒壊の危険性のある建物についての解体、建替えを行う。

委員会評価結果	**Ａ：概ね計画どおりの成果である**

委員意見（とりまとめ）

【評価への意見】
・計画どり取り組みが進んでいます。施設利用者の安全確保に向け着実な整備を期待します。
・計画や見通しは確実になっているので、地域コミュニティ関連等は、できるだけはやく進め、活力ある地域活動につなげていってもらいたい。
・旧柳田保育所の解体、再整備が遅すぎると思う。また、他の施設についても、将来の見通しをもって計画的に整備を進めてほしい。同じような施設はいらないと思う。
・地域の実情や要望を丁寧にヒアリングされていることかと思いますので、建替後の機能や利用方法など時代に沿った形になればより良いと思います。

【今後の取組や方向性についての意見】
・⑥の合同事務所についても、入居中の団体の意向を聞きながら解体ありきでなく建替えも検討してほしい。
・引き続き計画に基づいて改修・解体を願います。
・危険性のある建物で地域の行事やスポーツクラブの活動等が行われている。危険性のある建物で活動を続けているのはいかがなものか。早急に対象建物に関する解体または建て替えの計画を住民に説明して実施してほしい。
・震災の影響で早急な対応が求められる局面もあると思うが、地区の歴史の一つである公民館建築物については、歴史の継承・利便性・安全性向上が盛り込まれる設計を検討いただきたい。経済効率性のみでスクラップアンドビルドを選ばないでいただきたい。建て替えの際に、長い年月を地域と共に歩んだ公民館の歴史・地域の魅力を建物に一部でも盛り込む設計を望む。
・令和６・７年度にどの程度進捗があったのかはっきりしないが、計画的に取り組みを推進してほしい。

分類【成果指標事業】

区分	柱４　インフラを迅速に復旧・強靭化する
事業名	**公共土木施設災害復旧事業**

事業概要	災害により被災した上下水道施設の早期復旧と再度の被災防止と被害拡大の防止を図る。

委員会評価結果	**Ｂ：更なる取り組みの推進が必要である。**

委員意見（とりまとめ）
【評価への意見】 ・下水道の復旧は公衆衛生の観点からすると早期の実現を望みますが、広範囲に及ぶ激甚災害のため復旧工事完了の達成率が目標に届かないことはやむを得ないと思います。 ・今回の能登半島地震で下水道の被害が大きく水が出ているのに流せないということがあった。液状化エリアや被害が集中した下水道エリアについては、今後来るであろう災害に備え、下水道エリアの合弁処理浄化槽への切り替えも検討が必要ではないか。 ・震災時に下水道のことで市役所職員が大変な思いをしたことは言うまでもない。だからこそ、再度の被災防止と被害拡大の防止を図るよう工法の再検討をしてほしい。 ・先の地震の経験から上下水道の整備は最重要課題であると思う。世界情勢の悪化などでの資材不足もあると思うが、一日も早い整備が完了できるように進めていってほしいと思う。 ・復旧は進んでいますが工程に遅れが見られます。資材調達などの課題に対応し、復旧の加速を期待したい。 **【今後の取組や方向性についての意見】** ・いろいろ進捗が進まない要素はあると思いますが、重要な施策であり、早急な取り組みの推進を望みます。 ・引き続き上下水道の早期復旧・耐震化率向上作業を進めてください。

分類【成果指標事業】

区分	柱４　インフラを迅速に復旧・強靭化する
事業名	**体育施設整備事業**

事業概要	発災時の様々な拠点となることを想定した施設の早期復旧・強靭化を行うとともに、施設の集約・解体等の検討を行う。

委員会評価結果	**Ａ：概ね計画どおりの成果である**

委員意見（とりまとめ）

【評価への意見】
・計画どおり施設整備が進んでいる。引き続き利用者目線で使いやすい施設整備を期待します。
・市民スポーツ大会でも野球場のことが話題に上がっていた。計画通り進めていってほしい。
・余喜スポーツセンターについては、解体に賛成。公共施設の集約化は今後の財政状況にとって必要。一方で、災害時の避難場所減少に伴う代替施設の検討は不断の検討をお願いしたい。
・余喜スポーツセンターは、小さいが常駐職員がいて、市内・市外の多くの方に利用しやすかったため、なくなるのは残念である。仕方が無いが、市内のだれもが使いやすい施設の整備が進んでいくとありがたい。

【今後の取組や方向性についての意見】
・運動施設はスポーツ競技や趣味としての社交の場として機能しており、災害時には避難場所にもなるなど地域において重要な拠点になっていると思います。特に災害時には公的避難所になるため、解体については地域の実情と住民の声を十分に反映させていただければと思います。
・公共施設は地域コミュニティの場となるため、引き続き整備事業継続願います。
・災害時に避難所になることを考え、こうした施設の整備を計画的にしていくことが大切だと考える。優先順位をつけ、計画的に整備を進めていってほしいと思う。
・着実な実施をお願いします。

分類【成果指標事業】

区分	柱５　将来を見据えた災害に強いまちをつくる
事業名	**防災士育成事業**

事業概要	地域防災力の強化を図るため、県の補助制度や市の補助制度を活用し、各地区や町会における防災士の育成、強化を図る。

委員会評価結果	**Ｓ：計画以上の優れた成果を上げている**

委員意見（とりまとめ）

【評価への意見】
・これまでの取組みで各町ごとに見ても防災士が増えてきた現状は素晴らしいと思う。熊本地震を考えた場合、他人ごとではなく各町ごとに災害別に具体的な対応の在り方を防災士のみなさんを含めて協議して行くことが大切だと思う。
・呼びかけや受講費用支援により多くの登録者がいることは防災強化につながり、素晴らしいと思う。
・補助制度を広め防災士の育成を確実に進めている。今後、町会単位で防災訓練の実施が定例化できるとよい。
・防災士登録者が目標を大きく上回り地域防災力向上に大きく貢献しています。

【今後の取組や方向性についての意見】
・これまでも防災士の育成に取り組まれてきたことと思いますが、令和６年能登半島地震を契機にさらに防災士の登録者は増加すると思われます。今後も継続的に研修会などを通じて地域における防災体制の強化の取り組みに期待しております。
・羽咋市に定着している民間企業の会社員にも防災士育成も地域における防災体制の強化に繋がると思います。
・昨年、地元で自主防災組織を結成し、防災士の受講者を募ったが、新たな受講希望者が現れない状況。（仕事優先）
・防災士の取得人数を増やすことは引き続き行っていただき、併せて、過去取得した方へのフォローアップ研修への参加も積極的に促す必要がある。また、現状、町会から言われたので取得するという方が大半とお見受けする。町会の推薦が補助対象と知らずに取得を希望する積極的な方もいるが、町会推薦を自分でとりに行くというフィルターがあるため一部の積極的な人の足枷になり取得者増のブレーキになっていると感じる。
・防災士の登録者数が計画以上の実績があがっているのは喜ばしい。非常時にどのように動くかの訓練や、防災士同士のネットワークの構築が必要ではないか。
・防災士を増やすことは防災意識を高めるための一つの手段であるので、今後も防災体制の強化を図るため、講座の開催や啓発活動をお願いします。

分類【成果指標事業】

区分	柱５　将来を見据えた災害に強いまちをつくる
事業名	**登録制防災メール(安全・安心メール)整備事業**

事業概要	安全・安心メールを配信することで、市民に防災情報等を提供する。（安全・安心メールが市公式LINEに連携していることからLINE登録者を含む。）

委員会評価結果	**Ｓ：計画以上の優れた成果を上げている**

委員意見（とりまとめ）

【評価への意見】
・LINEと連携されているので便利に情報取得でき、さらに普段の会話の中での猪情報は大概安全安心メールの内容のため、生活に浸透していることを物語る。長期目標さらにあげることをしても良いのではないか。
・ＬＩＮＥによる情報発信は、令和６年能登半島地震の際に住民が情報を収集する手段として威力を発揮したと思います。特に高齢者でも利用できるＬＩＮＥを用いたことで、行政の支援策などが様々な年代に対して周知されたように思います。
・火災発生機能の追加によって、より身近なことに対する情報を得る手段として有用性が高い。
・登録者数が大幅に増え、情報伝達体制が大きく強化された。
・日々情報をいただいております。

【今後の取組や方向性についての意見】
・安全安心メールや市の公式lineの登録者を増やすために、特に高齢者を対象に考えた場合、各町でのサロン等で、その有効性を根気よく繰り返しわかりやすく宣伝する機会を設けていってほしい。
・市の公式LINEに流れてくる情報は安心・安心メールのダイジェスト版ということだろうか。今の若者～中年世代はメールよりLINEの方が利便性が高い。リソースが分散してしまうが、メールと並行して「羽咋市安心・安全LINE」といった形での提供があると非常にありがたい。
・登録者数が激増し、良いと思う。一方で、登録に戸惑う高齢者、便利さに気づいていない若者等もいると思うので、町会等を活用して広げていけるとよいと思う。
・防災意識は低下していかないようにアクションプランの実行を継続してください。

【その他の意見】
・取り組みが実績に繋がっている。登録者は多いが、特に安全・安心メールの活用状況はどのくらいあるのか？

分類【成果指標事業】

区分	柱５　将来を見据えた災害に強いまちをつくる
事業名	**災害時協力井戸登録事業**

事業概要	大規模災害の断水時において、生活用水を確保するため、一般開放に協力いただける個人所有の井戸の登録制度を創設し、防災体制御強化を図る。

委員会評価結果	**Ｂ：更なる取り組みの推進が必要である。**

委員意見（とりまとめ）

【評価への意見】
・羽咋市内の利用可能な全体の井戸数などが分かっておらず、目標件数の妥当性が判断できず。達成状況から評価いたします。
・災害時における水の早期の確保は命を守るための重要な行動ですが、その点において民間の井戸を開放する取り組みは素晴らしい発想だと思います。補助率が高いので、もっと各地域で本制度が活用されても良いように感じますが、申請に至らない原因が要件の面なのか、広報の面なのか、それ以外なのかを精査の上で今後も継続していただきたい内容だと思います。
・制度の認知度や登録の理解促進に工夫が必要である。
・断水時に開放協力いただける井戸があれば、大変助かると思うが、周知だけでなく、ある程度の個人交渉も必要かもしれない。
・登録が伸び悩んでいます。地域と連携した広報強化に期待します。

【今後の取組や方向性についての意見】
・このような情報は知られていないので アピールするべき。
・井戸整備に対する補助ではなく、井戸の提供に対する補助にしないと、なかなか登録に結びつかないのかもしれない。
・災害時には水の確保は命にかかわる重要事項となるので、積極的に推進してほしい。町会や自主防災組織が井戸を整備するのは、お金の面だけでなく、そのノウハウがないためどのように進めたらいいのかイメージがつかないのではないかと思われる。発注のやり方なども含めて相談できるとよいと思います。
・災害時のいのちの水となるため、推進加速をお願いしたい。特に孤立予測地区は広める必要があると感じている。
・周知の強化が必要
・新たに井戸を！というのも大事だが、すでにあって利用されていない井戸があるように思う。各町会単位での井戸の場所を再確認し、いざというときに利用できるように所有者との協議を進めるべきではないかと思う。

分類【成果指標事業】

区分	柱５　将来を見据えた災害に強いまちをつくる
事業名	**防災備蓄倉庫等整備事業**

事業概要	市内各公民館に分散して備蓄品の保管場所となる防災備蓄倉庫を整備する。 併せて備蓄品の配備を行う。

委員会評価結果	**Ｂ：更なる取り組みの推進が必要である。**

委員意見（とりまとめ）

【評価への意見】
・各公民館での備蓄品の整備が進んできていることは評価すべきである。ただ、能登地震の時の課題をふりかえると、さらなる分散備蓄が必要であると思う。各町会単位での備蓄をさらに進めていくべきではないか。
・災害発生時に備蓄品が集約された拠点が明確になっていることで、避難者や支援者の混乱を招くことがなく、落ち着いて行動できる一因となり、良い取り組みだと思います。可能であれば速やかに各地域に設置されるよう期待しております。
・住民にわかりやす形で設置されている。今後も継続して整備していってほしい。
・整備は進んでいますが遅れがあります。R8年度中の着実な整備を期待します。
・備蓄倉庫が順次公民館に設置され、いざという際に素早く対応できる仕組みになってきていると思う。備蓄一覧表を更新し、まだの所を進めてほしい。
・備蓄品を集約することにより効率化を図ったのは良い。今後も計画的に推進してほしい。

【今後の取組や方向性についての意見】
・引き続き防災備蓄整備を進めてください。
・今後の非常時に備え、早急に整備されることを望みます。
・地域の特性にあわせた装備になっているかの再検討をお願いしたい。簡易ベッドは、アウトドア用品の転用品が多いとお見受けする。高齢世帯が多い地域では転倒リスクがありかえってを避難環境を悪くすることになる。折りたたみ式コンパクトスチールベッドは、赤十字も避難所設置に推奨しており、段ボールベッドや簡易ベッドより簡単に広げるだけで設営でき、普段のベッドに近い環境を早く提供できる。数量限定での備蓄が適している。
・防災備蓄倉庫の設置は非常に大切だと思います。７月１１日に羽咋市自主防災連絡協議会に参加させていただいた際、電動簡易トイレを見させていただきましたが、汚物処理用の袋の取付が難しいと感じました。防災備蓄倉庫内に、箱詰めの状態で保管されているとの事でしたが、避難時に箱から取り出し、説明書片手にうまく設置できるものかどうか、少し不安になりました。

分類【５つの柱】

区分	柱１　くらしを再建する

復興目標	安心できる日常の暮らしを早急に再建します。

委員会 評価結果	Ａ：評価できる （概ね計画どおりに進捗し、着実な成果を上げている）

委員意見（とりまとめ）

【評価への意見】
・おおむね計画通りと考えられる
・どれも必要な事業ではあるが、KPIの設定によっては本来の目的に沿わないものもあったため
・ほとんどが計画通りに進んでいて成果も上がっている。復興に向けた整備やケアする仕組みが整っている。
・概ね計画以上の実績のため。
・公費解体が予定通り進められていることからも再建に向けて計画通り実施されていると判断できる。
・進捗の遅れの事業はなく、ほぼ計画どおり実施されている。
・進捗状況内部評価まとめによる。
・町内の神社旗木小屋の公費解体は、住民側の意見、要望に沿って施工していただきました。
・被災者の心身の健康や当面の住まいなど復旧・復興の基盤の再建を早期かつ的確に実施したことを評価します。
・被災者支援や健康・生活支援が概ね計画どおり進みました。
・評価を総合的に勘案した
・復興の土台となる公費解体が完了し、生活を継続するためのすべての事業が遅れなく順調に実施されている。
・令和７年１１月末までに申請７９６棟のうち７９０棟の解体を完了したという実績は素晴らしいと思う。

【今後の取組や方向性についての意見】
・どの項目も短期目標を達成している。中期目標は、計画時に設定した数値を目指すのでなく、この高ペースを維持することを目標としてほしい。
・（公費解体の迅速な執行や、介護予防（羽羽ポイント）の普及が進んでいることを感じました。）今後はデジタル弱者への継続的な支援が重要になると思います。
・（進捗の遅れの事業はなく、ほぼ計画どおり実施されている。）期間を延長している事業もあるが、今後も状況に応じ期間延長等柔軟に対応する必要があると考えます。
・こころの健康づくりと自殺予防対策は今後も継続していただきたい。
・スマホ教室では、初心者に対して特殊詐欺対策（警察庁推奨の無料アプリ）などのダウンロードを直接ご指導いただければと思います。

分類【５つの柱】

区分	柱２　住み続けるふるさと(地域)を再生する。

復興目標	誰もが心豊かに暮らせる地域に再生します。

委員会 評価結果	A：評価できる （概ね計画どおりに進捗し、着実な成果を上げている）

委員意見(とりまとめ)
【評価への意見】 ・液状化・耐震に関しての取組が進み、さらに公営住宅が順調に建設されている。 ・計画以上に成果が出ている一方で、更なる取り組みに期待したい面があったため。 ・今後の生活に対する被災者の不安の払拭（住宅やコミュニティの維持・回復等）に向けて、様々な観点から施策を立案・着手したことを評価します。 ・時間がかかることも多い中、耐震化を進め、液状化関連業務や分譲地の計画などできることを進めている。 ・住宅再建や定住促進は着実に進んでいます。 ・進捗状況内部評価まとめによる。 ・進捗遅れの事業はあるものの他律要因であり、ほぼ計画どおり実施されている。 ・評価を総合的に勘案した ・目立った遅延はないとみられる **【今後の取組や方向性についての意見】** ・７月２８日、熊本では再び大地震に見舞われました。まさに他人事ではありません。今後も耐震住宅リフォーム支援事業の継続、周知・普及をお願い致します。地域コミュニティ施設等再建支援事業で地元神社の灯籠復旧工事を補助していただいた。地震はまたいつ起こるかわからないので、今後もこの制度を継続していただきたい。 ・液状化対策、住宅整備等ハード事業は今後本格的な推進が見込まれる。安心して定住できるようにより速いペースで進めてほしい。 一方で地域のコミュニティは、安全になるよう早めに再建できるようにしたい。 ・住みよいまちづくりを継続して着手してください。 ・詳しい専門的なことはわからないが、対策工事に時間がかかりすぎるのではないかと思う。５年、１０年、、、といわれると高齢者が主な家では困ると思う。対応を早くしてあげてほしい。 ・集会所再建の遅れに対し、施工業者の共同発注等の調整が必要だと思います。 ・業者や資材の不足などもあり大変かと思うが、今後も努力願いたい。

分類【５つの柱】

区分	柱３　地域経済を復興する

復興目標	生業の再建・復興を通じて、地域経済の活性化、賑わいの創出を目指します。

委員会 評価結果	Ａ：評価できる （概ね計画どおりに進捗し、着実な成果を上げている）

委員意見（とりまとめ）

【評価への意見】
・おおむね順調と思われる
・なりわい再建支援が目標の2倍を超え、経済基盤は回復基調にあると感じました。
・ほぼ計画どおり実施されおり、計画以上の実績をあげている事業も多い。
・概ね計画以上の実績のため。
・起業支援やふるさと納税などで計画を上回る成果が見られました。
・進捗状況内部評価まとめによる。
・生業再建、農林漁業の振興、観光産業の再生など地域を活性化する施策を幅広く展開し、成果に結びつけていることを評価します。
・地域経済の復興事業は概ね順調に進められている。
・地域産業の早期復旧に向けて、県の補助制度のみでなく、市独自支援策の上乗せを行い、事業者の再建を支援している。
・評価を総合的に勘案した

【今後の取組や方向性についての意見】
・各種イベント、本州初のトキ放鳥など、積極的な情報発信は非常に良い事だと感じます。千里浜海岸のＰＲなども合わせて、今後も情報発信をお願いします。デジタル博物館の文化財の3Dモデルデータ化の取組みは非常に良いと思います。ただ、自宅のＰＣで閲覧できてしまうと、歴史民俗資料館へ足を運ぶ事が無くなってしまうような気がします。
・継続してほしい事業が多くある
・震災による文化財レスキューの取組みは大変だったと思います。今回集まった文化財を多くの市民のみなさんに知ってもらえるような企画・取り組みを期待しています。私たちの先祖たちがどうやって暮らしてきたのかその歩みをわかりやすく伝えてほしい。
・賑わい創出や生業再建などとても順調に進み、活性化につながっている。羽咋のアピールもできている一方、羽咋は海どころなので、漁業振興は少し力を入れても良いと思うし、柴垣や滝などの魅力を伝えていければと願う。
・良い実績が出ているものは高水準を維持しさらに伸ばしていってほしい。

分類【５つの柱】

区分	柱４　インフラを迅速に復旧・強靭化する

復興目標	災害に強い都市基盤を構築します。

委員会 評価結果	**Ｂ：やや不十分である** （計画よりやや遅れ、または取り組みの強化が必要である）

委員意見（とりまとめ）

【評価への意見】
・外部環境の変化（中東情勢の影響等）により進捗が遅れている施策はあるものの、市として出来ることは実施していることを評価します。遅れを取り戻す取組みを期待します。
・業者不足、材料調達で遅滞している点がある
・進捗が遅れている理由は十二分に理解ができます。
・進捗状況内部評価まとめによる。
・道路・上下水道の復旧に進捗の遅れを感じます。
・評価を総合的に勘案した
・復旧にご尽力されていることに大いに感謝する一方で、震災を経てインフラを強靭化するための手法に新たな考え方、取り組み方が必要な場面がてていると感じる
・復旧工事は概ね進んでいますが、一部に遅れもあります。安全を最優先に着実な整備を進めていただきたいです。

【今後の取組や方向性についての意見】
・下水道管復旧の工事に時間が要する理由はよく理解できたが、関係機関との調整を見直し進めていってほしい。
・今後いつ発生するかわからない災害の被害抑制のためにも、道路、河川、水道設備などの復旧は迅速にすすめてほしい。
・仕方ないことだが、道路・河川復旧や上下水道施設の復旧等に時間がかかっている様子が見られるが、できることを優先して進めていってもらえれば、と思う。
・市道に陥没個所が多々あり、修繕が滞っていると感じます。本復旧の工事施工に、かなりの年月を要するとなれば、まず陥没した箇所を埋める仮処置だけでも、行っていただけないものでしょうか。
・進捗遅れ事業が一部見れれるものの計画どおりの事業が多い。復旧事業に関して進捗が遅れている事業があるが、復旧事業については優先的に実施してほしい。
・世界情勢の悪化などがあったと思うが、復旧・再整備が遅いと思う。先進地の例を参考に、事業を進めていってほしいと思います。

分類【５つの柱】

区分	柱５　将来を見据えた災害に強いまちをつくる

復興目標	住民・地域・行政の協働により地域の防災・減災力を高めます。

委員会 評価結果	A：評価できる （概ね計画どおりに進捗し、着実な成果を上げている）

委員意見（とりまとめ）

【評価への意見】
・進捗状況内部評価まとめによる。
・評価を総合的に勘案した
・防災士、防災備蓄品、伝達手段は災害予防の重要な資産であり、一層の普及を期待する。
・防災士の育成、防災メールの登録者数の増加にめざましい点がある
・防災士育成や情報伝達体制の強化が着実に進みました。
・防災士数やメール登録率は高いと感じます。今後は協力井戸の登録など、地域での「近助（近所同士の助け合い）」を増やす具体的な働きかけが必要だと感じます。
・目標未達の施策も計画に沿って進めることはできていること、いくつかの施策では計画以上の成果を上げていることを評価します。必要に応じて施策の強化・見直しを検討することも期待します。

【今後の取組や方向性についての意見】
・いろいろな面で防災機能が高まっている一方で、少ない単位として、町の人のつながりを強くすることも大切だと思う。その意味で、市の大きなイベントが町の祭礼等に重ならないようにと思う。
・熊本の地震にとてもショックを受けています。能登でもあり得るかもしれません。各町ごとにより具体的な対応の仕方を話し合い、整備を進めていくことが必要だと思います。
・継続して災害に強いまちづくりを願います。
・高い目標かもしれないが、将来を見据えたものにするため第2目標も設けた取り組みをお願いしたい。
・昨年、地元で自主防災組織を結成し、防災士の受講者を募ったが、新たな受講希望者が現れない状況（仕事優先）。防災備蓄倉庫の設置は非常に良いと思います。７月１１日に羽咋市自主防災連絡協議会に参加させていただいた際、電動簡易トイレを見させていただきましたが、汚物処理用の袋の取付が難しいと感じました。簡易トイレは、防災備蓄倉庫内に箱詰めの状態で保管されているとの事でしたが、避難時に箱から取り出し、説明書片手にうまく設置できるものかどうか、少し不安になりました。
・進捗遅れ事業が一部見れれるものの計画どおりの事業が多い。災害に強いまちづくりは安心して暮らすために必須です。進捗が遅れている事業を含め重点的に取り組みをお願いします。
・防災士を中心とした訓練を町単位でぜひ実施してほしい。また、各公民館に設置してある防災無線等の使い方を公民館関係者（館長と主事のみなのか。運営審議委員会の方も使えるのか？）がどこまで使えるのかも把握していってほしい。

分類【総括】

区分	総括評価

委員会 評価結果	A：評価できる （概ね計画どおりに進捗し、着実な成果を上げている）

委員意見（とりまとめ）

【評価への意見】
・短期計画全体として概ね計画どおり進捗し、多くの成果が確認できました。今後は遅延事業の着実な推進と成果定着を期待します。
・多様の課題はあるものの復興に向けて確実に進んでいると判断したため。
・上記のとおり復興に向けた取組みは着実に進んでおり、期待どおりの成果を上げていると評価します。
・概ね計画通り進捗しているため。
・ふるさと納税、誘客、宅地分譲等でさらなる伸びしろが期待されることから判断した。
・概ね計画通りに推移している。復旧工事関連に遅れが出るのは、関係各所との調整が難航したり、関連業者の不足など致し方ない面が多々あると認識している。できることから着実に積極的に進めていくことを期待する。
・どの柱においても９０％以上の事業が計画どおりに進められている。全体としても９５％以上が計画どおりに進められており、着実に復旧、復興が進んできている。
・地震発災後、市長さんをはじめ市の職員の皆さんには本当にがんばっていただいていると思って見てきました。今後も復興への着実な前進をお願いしたい。
・全体的評価は、概ね内部評価と相違ありません。今後は、復旧から復興へ向けて、安心して市外から移り住めるまち作りを目指してほしいと思います。

【今後の取組や方向性についての意見】
・公費解体の加速やなりわい支援の進展により、生活・経済の両面で着実な回復を感じました。住民の防災意識の高さも大きな成果に繋がっていると思います。一方で、インフラ復旧の遅れが見受けられます。今後は施工体制の効率化（共同発注等）を図るとともに、デジタル支援や地域コミュニティによる助け合いの具体化が必要だと思います。
・おおむね計画とおりに進捗していると思います。今後も継続した取り組みをお願いします。
・実態を踏まえた計画から取組を推進して実績を上げているのがよい。物理的なことや個人的なことに関わることで時間がかかるものもあるが、募集や申請だけでなく、交渉なども適宜進めながら推進していってほしい。
・多くの素晴らしい取り組みがあることは評価できるが、一方で不十分な事柄がある。被災された方々を含めた市民のみなさんの生活を取り戻し、さらによくなるように取り組んでいってほしい。
・震災を経てこれまでの取り組みを大きく転換する場面に来ていると感じる。これを契機に難しい課題にも取り組んでいただきたい。

＜ 資 料 ＞

1　羽咋市復興実施計画評価委員名簿

No.	氏名	所属等	役職
1	松田　孝司	羽咋市社会福祉協議会　会長	委員長
2	濵辺　巖	羽咋市町会長連合会　会長	副委員長
3	藤本　裕子	羽咋市商工会　理事	
4	中田　昌宏	はくい市観光協会　会長	
5	杉浦　　繁	株式会社ハクイ村田製作所　取締役工場長	
6	木曽　直樹	はくい農業協同組合　金融共催部長	
7	柳梅　伸光	日本郵便株式会社　一ノ宮郵便局長	
8	新濃　道子	七尾公共職業安定所　羽咋出張所　所長	
9	出雲　香苗	羽咋市教育委員会　教育委員	
10	立中　善英	羽咋市校長会　瑞穂小学校　校長	
11	竹本　太郎	日本政策金融公庫　金沢支店　農林水産事業統括	
12	川崎　克幸	興能信用金庫　羽咋支店　支店長	
13	竹本　徹也	連合石川七鹿羽咋地域協議会　事務局長	
14	新谷　彰久	株式会社北國新聞社　羽咋総局長	
15	島崎　勝弘	株式会社中日新聞社北陸本社　通信局長	
16	西　　敏之	西司法書士事務所　代表	
17	番匠　未樹	羽咋市青年団協議会　会長	
18	濱辺　正実	羽咋市スポーツ協会　副会長	
19	中村　晴樹	公募委員	
20	北川　正彦	公募委員	
21	上田　寛	公募委員	

２　羽咋市復興実施計画評価委員設置要綱

令和８年７月１日告示第７５号

（設置）

第１条　羽咋市復興実施計画（以下「計画」という。）の進捗管理及び評価、検証にあたり、専門的かつ幅広い観点からの意見聴取を行うことにより、計画を着実に実行し、市民とともに「未来につながる復興」を効果的に推進するため、羽咋市復興実施計画評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（所掌事務）

第２条　委員会は、次に掲げる事項を審議し、意見等をとりまとめ市長に提言を行う。

（１）　計画に掲げる施策及び事業の進捗状況の評価に関すること。

（２）　復興プロセスの課題認識及び今後の方向性の検証に関すること。

（３）　前２号に掲げるもののほか、計画の推進に関し必要な事項に関すること。

（委員）

第３条　委員は、羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議設置要綱第３条第２項の規定により委嘱された羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議（以下「総合戦略会議」という。）の委員をもって充てる。

（委員長及び副委員長）

第４条　委員会に、委員長及び副委員長各１人を置く。

２　委員長には総合戦略会議の会長を、副委員長には総合戦略会議の副会長をもって充てる。

３　委員長は、委員会を代表し、会務を総括する。

４　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代行する。

（会議）

第５条　委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。ただし、委員の委嘱後最初に開かれる会議は、市長が招集する。

２　会議は、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができない。

３　会議の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

４　委員長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

５　会議において配布された資料及び議事要旨は、原則として公表する。ただし、委員長が特に認めるときは、その全部又は一部を公表しないことができる。

（庶務）

第６条　委員会の庶務は、羽咋市復興本部事務局において処理する。

（その他）

第７条　この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附　則（令和８年７月１日告示第７５号）

（施行期日）

１　　この告示は、令和８年７月１日から施行する。

（告示の失効）

２　　この告示は、令和 14 年３月 31 日限り、その効力を失う。